



「技術で、熱く、世界を支える」を旗印に掲げ、ポンプを中心とする産業機械メーカーとして社会や産業インフラを支えている株式会社荏原製作所。グローバルで事業を展開する同社は、海外グループ会社で発生したランサムウェア攻撃をきっかけに、国内外のセキュリティ対策をさらに強化するためにSophos MDR Completeを全世界のグループ会社に導入した。

CUSTOMER-AT-A-GLANCE



株式会社 荏原製作所

本社所在地 〒144-8510 東京都大田区羽田旭町11-1

WEBサイト www.ebara.co.jp/

ソフォスソリューションズ Sophos MDR Complete

10社を超える製品を比較検討し、
管理性能とグローバルでの認知度、
米国のグループ会社での導入実績を総合的に評価して
Sophos MDR Completeを採用しました。

株式会社 荏原製作所

情報通信統括部

ITアーキテクト部 ネットワーク・セキュリティ管理課

木村 太郎 氏



「水と空気と環境の分野で、優れた技術と最良のサービスを提供することにより、広く社会に貢献します。」を企業理念に、ポンプやごみ処理プラント、半導体製造装置など、社会や産業を支える製品をグローバルに提供している株式会社 荏原製作所。同社の情報通信統括部では、2016年からネットワーク・セキュリティ管理課が中心となって、情報セキュリティ対策の強化に取り組んできた。日本全国に加えて、全世界に100社を超えるグループ会社を構成する同社では、増大するサイバー攻撃の脅威からグローバル規模で情報システムを防御するために、Sophos MDR Completeを導入した。

ビジネスチャレンジ

「重大なランサムウェア被害をきっかけに情報セキュリティ対策の強化が急務となる」

株式会社 荏原製作所 情報通信統括部 ITアーキテクト部 ネットワーク・セキュリティ管理課で、グループ会社全体の情報セキュリティ対策に取り組んできた木村太郎氏は、そのキャリアと経緯を次のように切り出す。

「サイバーセキュリティ対策に取り組むネットワーク・セキュリティ管理課は、2016年に整備された部署です。私は、独立行政法

人情報処理推進機構（IPA）の産業サイバーセキュリティセンターが運営している中核人材育成プログラムを1年間受講して、海外トップレベルのサイバーセキュリティ対策のノウハウを獲得しました。その知見をもとに、2019年から同課でサイバーセキュリティ対策を推進してきました。赴任した当初は、グローバルでのIT構成を標準化したり、基幹系システムの刷新と並行して、旧世代のエンドポイントセキュリティの更新を計画していました。しかし、2021年2月に海外のグループ会社がランサムウェアにアタックされたことから、サイバーセキュリティ対策の強化が急務となりました」。

ランサムウェア攻撃の影響は大きく、増大するサイバー攻撃の脅威からグローバルに展開するグループ会社を守るために、ネットワーク・セキュリティ管理課では、エンドポイントセキュリティの刷新に乗り出した。木村氏は「サイバーセキュリティ対策の強化では、10社のエンドポイントセキュリティ製品の比較検討をはじめとして、Google WorkspaceによるWebメール導入と、エンドポイントをリアルタイムに可視化するプラットフォームなどの検討を開始しました」と話す。

テクノロジーソリューション

「10社を超える製品から管理性能とグローバルでの認知度などを評価してSophos MDR Completeを選定」

2021年6月から急ピッチで進んだサイバーセキュリティ対策の強化は、10社を超えるエンドポイントセキュリティ製品の選定から始まった。木村氏は「製品の

選定と並行して、海外グループ会社に質問表を送って、現地のITがどのようになっているか調査しました。その結果、エンドポイントセキュリティの標準化に加えて、セキュリティをマネジメントする仕組みも必要だと判断しました。そこで、体制面ではグローバルのCSIRT (Computer Security Incident Response Team) を編成すると同時に、ITコンサルティング会社の市場調査レポートで高い評価を得ているサイバーセキュリティ製品を中心に製品を絞り込んでいきました」と選定の経緯を振り返る。

選定の当初は10社を超えていた対象は、最終的には3社に絞られ「評価用のライセンスを発行してもらい、機能の検証を実施しました。PoCで重視した点は、検知性能に加えて、管理コンソールの使い勝手やリージョン単位での運用といった管理性能の優劣でした。グローバルでの運用を前提としていたので、拠点ごとに管理サイトを用意できるかがポイントでした。その点で、Sophosユーザーであれば無償で利用できるエンタープライズ向けのテナント管

理機能コンソール (Sophos Enterprise Dashboard) は、我々の希望する通りの管理性能を提供していました。それに加えて、Sophosという知名度も選定に寄与しました。以前に利用していたエンドポイントセキュリティは、アジア圏では有名でしたが、欧米では認知度が低かったので、グローバル展開には不向きでした。対するSophosは、欧米でも広く知られているサイバーセキュリティ対策のブランドなので、各国の担当者にも納得してもらえました。さらに、グループ会社では以前からSophosのエンドポイントセキュリティを利用していたので、現場の担当者が使い方を習熟していた点も、選定に有利に働きました」と木村氏は説明する。

ビジネスインパクト

「検知性能のチューニングで現場の求める運用環境を整備」

Sophos MDR Complete導入の成果に

ついて、木村氏は「荏原グループ全体のサイバーセキュリティ対策を、スピード感をもってグローバルで底上げできたと評価しています。グローバルでは、2022年内に導入を推進できました。国内では、2022年から順次導入を開始して、翌年の6月から本格的な運用がスタートしました。国内で時間がかかったのは、現場で利用しているアプリの関係でした。製造業では、国内産の特殊なアプリを利用しているため、Sophosのエンドポイントセキュリティで過検知されるケースがありました。そうしたアプリをホワイトリストに登録するなど、検知性能をチューニングして現場の求める運用環境を整えていきました」と話す。

Sophos MDR Completeの納入をサポートしてきたソフォスの認定販売パートナーの株式会社NSDに対して、木村氏は「ソフォスのプラチナパートナーとして、多くの納入実績がありサポート体制も整備されているので、今後の強化策を含めて、いろいろ相談できればと思っています」と期待を寄せる。

フューチャービジョン

「ソフォスラーニングの活用やGmailのセキュリティ強化を推進」

今後に向けた取り組みについて、木村氏は「Sophos MDR Completeの導入は、サイバーセキュリティ対策のゴールではなく、スタートだと受け止めています。今後は、教育の面からも社員のサイバーセキュリティに備える意識を高めていきたいと考えています。そのために、ソフォスラーニングの活用を検討しています。また、Sophos MDR Completeで新たに提供された「サードパーティ統合」を利用して、Gmailのセキュリティ対策も強化していきます。「サードパーティ統合」では、API連携でGmailの認証情報やアカウントの変更情報を統合的に管理できるので、Webメールの安全性を高められると考えています」と計画を語る。



荏原製作所 本社